

内外交差点

ルーツは大阪最古の老舗・大宝タクシー そらとぶタクシーのビジネスとその革新性

實上 卓音氏（そらとぶタクシー社長） 第2／12回

長年にわたり地域の足として交通インフラを支えてきた老舗タクシー会社である”大宝タクシー”から分裂し、新たな挑戦に取り組んでいる。それが私達「そらとぶタクシー」です。この挑戦の背景には、「人の移動」の本質に対する理解と経験からの「移動へのこだわりと追求の精神」があります。車による移動に長年携わってきた私達は、都市部の渋滞や地方へのアクセスの不便さなど、地上交通が抱える課題を熟知しています。私たちはそうした課題を抱え、「もっと自由に快適な移動手段を提供し、この移動という世界に革命を起こしたい」という思いから空の移動に着目しました。

私たちの目指すサービスは単なる超富裕層ターゲットの贅沢な空の移動ではありません。ターゲットは主に観光目的や高付加価値移動を求める中間層から富裕層の間で、そこにラグジュアリーと効率性を兼ね備えたプライベートな空の移動を提供します。今までのプライベートジェット（PJ）やヘリコプターは、極めて上位の富裕層だけの利用に限られていました。PJもヘリも利用するにはまず、郊外の空港かヘリポートまで車で移動する必要がありました。主要都市間の移動であれば新幹線の方が移動が早くて楽という状況、そのため移動手段として空を選択したとしても、一定距離以上の長距離の移動でしか時間的な効率化はできませんでした。

例えばカブ&ピースの前澤友作社長がPJで山口県に日帰りでカニを食べに行く。普通の飛行機でいくより空間は贅沢ですが、時間は普通の飛行機で行ってもそんなに変わりません。PJは時間もカネも両方を持って余した超最上級富裕層にしか意味のない乗り物だったのです。しかし、そらとぶタクシーは時間的な制約も超越する事ができます。なぜなら規制緩和がおり、今までのヘリでは実現できなかった都心のビルの屋上からの離発着や地方観光地への移動がそらとぶクルマならできるようになってくるからです。

例えば大阪市内から熊野古道、紀伊半島の温泉地、伊勢やゴルフリゾートなど、通常であれば車で3～4

時間かかるようなルートを、家からわずか30～40分でプライベートに移動でき、これにより従来の移動手段では得られなかった時間のゆ

とりと快適さを提供できます。しかも6人搭乗する事ができます。気の合う仲間と割り勘で乗ってみたいと思いませんか？超金持ちでもそうでない人も、読者の皆様の住むタワマンの屋上から直接 東京や大阪の都心に飛べるとしたら？直接ゴルフ場や観光地に飛べるとしたら？北新地で高い酒を飲むより最高の接待ができます。最高の家族サービスができます。走馬灯で振り返るほどの思い出を作る事ができます。

私たちは先進的なeVTOLメーカー「PLANA（プラナ）」との提携でそれを実現可能にします。プラナ社は韓国の企業ですが、機体はアメリカで生産され、長距離飛行や大容量輸送が可能な高性能モデルであり、2028年には日本市場での運用開始が予定されています。同社はこの機体の日本国内における独占供給契約を締結しており、大きな競争優位を確保しています。

また、空の移動サービスを提供するに、同社は大手航空会社や航空局出身の専門家をチームに迎え、航空事業者として必要なAOC（事業の認可）取得を進めており、法制度の面でも着実に準備を進めています。

ビジネスモデルにおいても、既存のタクシー事業で培った顧客基盤が活きており、これまで長年付き合いのあるハイヤー顧客や観光業界のネットワークが、空飛ぶタクシーの初期利用層として想定され、スムーズな市場開拓が可能です。価格帯としては、従来の高級ハイヤー移動（一定の長距離で15万円）に対して、eVTOLでの移動はおおよそ50万円程度と想定されていますが、時間短縮や特別感と優越感のある体験価値を提供できます。

私達は「移動」を一つの総合的なサービスとして再定義して、将来的には空港・ホテル・観光地などをつなぐ「空の回遊型観光」や、「ビジネスジェットのショート版」のような新たな観光移動スタイルも構想し、単なるタクシー事業の延長線ではない、未来型モビリティ事業としての展開を構想しています。誰よりも早く・何よりも便利にラグジュアリーかつ手軽に空を革新的に移動する未来を目指しています。

